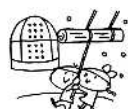




12月園だより

ホームページ <https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/minamisenju2/index.html>



ハレの日をエネルギーの再生に

園長 立石 晃子

赤や黄色で色づいていた園門の桜やドナウ通りのモミジバフウの葉は落ち葉となって道路に落ち、木の枝から空が見えるようになり、冬の訪れを感じる季節となりました。とはいえ、まだまだ温かい日差しの中、子供たちは園庭で鬼ごっこやドッジボールを楽しんでいます。

11月20日(日)、年中・年長組は汐入文化祭に出演し、合唱を披露してきました。汐入文化祭は、幼稚園が位置するリバーパーク汐入町会の行事で、地域の方が一堂に集まり、歌やダンス等の発表や作品展示が行われます。毎年、幼稚園は出演してきましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け近年は中止されてきました。今回3年振りの実施で、汐入文化祭を経験したことがない教員や保護者の方が多くなっていったところでしたので、覚えている教員や保護者の方と当時の経験を思い出しながら、準備を重ねてきました。年中・年長の子供たちは、ライトが輝く汐入小学校体育館の舞台に立ち、たくさんのお客さんが観覧する中、堂々と歌を披露してきました。子供たちにとって初めての大きな舞台での披露となったことと思います。「まさかこんな大きな舞台とは」とその場で初めて事の大きさを感じたお子様もいたのではないのでしょうか。終わった後、私に「園長先生、感動した？」と聞いてくるお子様がいて、やり切った、頑張った、という気持ちが伝わってきました。保護者の皆様やもも組の皆様の温かく期待や憧れを込めた眼差しは子供たちの力になりました。応援ありがとうございました。

この様子を見て、私は、「ハレの日とケの日」を思い浮かべました。「ハレ・ケ論」は、民俗学者 柳田 國男氏が、日本人の暮らしを「ハレ」(非日常)と「ケ」(日常)の二大原理で説明したものです。また、柳田 國男氏を師にもつ櫻井 徳太郎氏という方は『私説 柳田 國男』の中で、「人間の社会では、暮らしの日常態を示すケ(褻)と、反対に非日常態をあらわすハレ(晴)の二つの側面とが、互いに交替しながら進行する。その律動原理が成り立つのは、人間の生命を維持するケの活動がうしなわれ、氣息奄奄のケガレ(褻枯れ-穢れ)状態におちいつてしまったときの転換構造にある。人はこの危急存亡の危機的状況におそわれると、かならずよみがえるための回生賦活のスプリングが発条のようにはたらく。その瞬発力がハレの空間をつくり、人びとはそこで本来のエネルギーを再生し復活する。」と説かれています(板橋区ホームページより)。

新型コロナウイルス感染症拡大で「ケ」を続けなければならなかった、続けなければならぬ状況ですが、今回、汐入文化祭のような「ハレ」の機会をいただけたことで、大人も、子供たちも本来のエネルギーを再生し、復活する機会となったのではないのでしょうか。「ハレ」は自信を獲得し次の活動の意欲につながります。改めて「ハレ」の日の大切さを感じた一日でした。

楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

< 3 歳もも組 >

なにを作ろうかな？これで一緒に遊ぼうよ！

待ちに待ったバス遠足やみんなで育てたサツマイモを食べた焼き芋会、手作りステンドグラスなど自分のスキヤステキを見つけた汐入小学校の展覧会見学など、秋を感じて味わうイベントが盛り沢山の 11 月でした。最近のもも組は、まさに芸術の秋。作ることを楽しむ姿がたくさん見られるようになってきました。空き箱や紙テープ、お面バンド、くるくる棒、ハートや丸の形の画用紙を組み合わせてモノや衣装が完成します。友達に作り方を聞いてみたり、完成したモノを身に付けてなりきったりして遊びんでいます。また保育室内や砂場には、どんぐりや千日紅、オシロイバナの種などをトッピングした食べ物屋さんオープンしています。

12 月も元気よく体を動かして楽しみます。冬の集いやもちつき会など、引き続き楽しい行事を経験し 2 学期を締めくくり、新学期に期待をもてるように過ごしていきます。

< 4 歳たんぽぽ組 >

秋をいっぱい感じて、いっぱい遊ぼう！

「秋を探しにいこう！」と出掛けたドナウ通では、赤や黄に色づく大きな葉に「わぁ、きれい」と自然と声が出てくる様子がありました。拾った葉を手元で束ねていくと、花束のようになっていき、どの子供の手にもきれいな落ち葉の花が咲いていました。園でも、どんぐりや千日紅のドライフラワーを紙粘土に飾ってケーキを作ったり、お面バンドに落ち葉を付けて耳にしたりと遊びの中にも秋を感じることができました。また、焼き芋会での焼き芋や夏に収穫したトウモロコシをポップコーンにして味わうことができ、食欲の秋も満喫しました。

1 2 月に入ると寒くなってきますが、園庭の陽だまりで友達と一緒に鬼ごっこ等を楽しみ、体を動かすと温かい！心地よくなる！と感じられるようにしていきます。観劇会の中で行われていたザル回しや籠玉にも興味をもって遊んでいます。コマや羽根つきなどの遊びも取り入れていきます。冬の集いやもちつき会にも参加し、この季節ならではの行事に関わり、そして、大掃除などを通して、新年を迎える気持ちをもてるようにします。

< 5 歳ばら組 >

「きれいだねー」「どうやって作ったんだろう？」「すごい！」って心が動く！

11 月は焼き芋をしたり、アートの日で藝大の方々とろうけつ染めをしたり、遠足に行ったり、拾ってきた木々や実などを使って秋のオブジェを作ったり、小学校の展覧会を見学したりと、「秋」や「きれい」を感じる行事がたくさんありました。芸術の秋、秋にしか感じられない色合い、「きれい」と思える感性を大事にしていきたいものです。

劇遊びの会に向けて、学級みんなでお話づくりをしようと、話し合いを重ねる中で自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながらオリジナルの物語ができました。必要なことや物を自分たちで考えまとめていく中で、みんなで作り上げている一体感や、より強い学級のつながりを感じられるようにしていきます。また、共通の目的に向かって役割を意識し、力を合わせることで達成感や充実感が味わえるよう援助します。

そして、12 月は、年末ならではの行事やこの時期にしか経験できないことなど、年長なりに意味を知り、存分に楽しんでいきます。